

令和8年度第4回TAMA女性センター市民運営委員会 会議概要

開催日時： 令和8年8月14日(金)10:00～11:30

場 所： TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：【委員長】野寄理佳子委員、岡田貴子委員、【副委員長】島田直広委員、藤江美也子委員、吉岡希実子委員(委員長以下 50 音順)

欠席委員： 櫻田万里委員、田中伶委員

TAMA 女性センター(事務局)： 武井係長、小泉主事

傍 聴 者： なし

司 会： 【委員長】野寄理佳子委員

<配付資料> なし

1. 開会

2. 自己紹介 (委員発言：●)

これまで発表の機会がなかった委員が、自身の興味・関心について発表を行った。

●教育とジェンダーに関心がある。ジェンダー平等が女性の問題として捉えられていることが多いが、男性も性別によって押し付けられている価値観があるため、幅広く考えていきたいと思っている。若者が社会に出たときに上の世代の価値観を受け継いでしまうのではないかと感じており、若者だけでなく上の世代にもアプローチしていきたい。市民運営委員としてやっていきたい事業としては、身近なところを入り口として、ジェンダーに関心がない人もジェンダーについて考えるきっかけとなるような事業を実施していきたい。

3. 今年度の事業について (委員発言：● 事務局発言：□)

今年度の市民運営委員会では、「既存の事業等の認知度を向上させ、情報を必要としている人に確実に届けることを目標に、委員会で検討したものを実践する(啓発事業等)ことで、次につなげていく」ということが方向性として共有された。その中で、以下の2点について議論を行った。

(1) 料理を入り口とした啓発事業について(これまで検討していたことの実践の場)

前回の市民運営委員会では、「パパと子どもの料理教室」が案としてあがっていた。狙いとしては、料理を入り口として、これまでTAMA女性センターとの接点が少ないと思われる父親や子どもなどがTAMA女性センターとつながる場としていきたいということがある。そして、料理を一緒にするという体験を通して、男女の役割についても知り、必要な情報・相談先につながるようにしていきたい。具体的に検討したことは以下のとおりである。

◆ 対象・定員・内容

●予算はどうなるか。

□市民運営委員会で企画した事業は、TAMA女性センター共催事業として行うため、講師謝礼などは市の基準の範囲で市がお支払いする。

●参加費について、無料にすると直前のキャンセルが増える聞いたことがあり、少し徴収するのはどうか。

□TAMA女性センターの主催事業の多くは無料であり、特段の理由がなければ徴収しないこととなっている。

●無料だと、申し込みのハードルが低くなるのがメリットとしてあるが、デメリットとしてキャンセルのハードルも低くなる。素敵な企画でもキャンセルが多くなるのは避けたいので、参加費を徴収しないとなればキャンセルされないような工夫をしていきたい。

●ジェンダーを考えるきっかけとなるような企画としたい。多摩市と交流が続いているアイスランドに関する企画はどうか。本格的な料理は難しいかもしれないが、デザート一品ならできるのではないか。

●他市の事例をいくつか調べたが、料理を学んだ後に家庭で実践できるような流れを用意しているところや、実際に体験後に学んだ知識をもとに料理したかと効果測定を行っている自治体もあった。内容は手打ちうどん教室や飾り巻きずしなど再現性は低いが体験として魅力がある企画や、料理ではなくエプロンや木の皿づくりを企画としている自治体もあった。料理の内容は今後検討するとして、料理に加えて子どもから家庭の実情を明らかにするようなゲーム（例：この家事、誰がやっている？）を行うのも良いのではないか。また、最後にアンケートでTAMA女性センターの認知度や、どのような媒体から情報を得ているかなどについて調査を行い、今後につなげられるような事業としたい。

●内容については、家でも作れるような再現性の高い料理を扱いたい。

●普段料理をしない人を対象とし（例：父と子）、料理をいつもしている人（例：母）を試食役として来てもらう話があげていたかと思う。体験をしない人は出来上がるまで待つこととなるため、パワーポイントや動画などを作成し見てもらうようにするのはどうか。講座だと堅苦しく感じてしまう人もいるだろうから、アニメーションなど気楽に見られるものを作成したい。そこでTAMA女性センターの紹介を行うことで、アンケートの価値も高まるのではないか。

●簡単な動画の作成ならできるので、認知度向上の選択肢の一つとして考えていきたい。

●多摩市と関連がある料理をできたら良いと思うが、アイスランド料理以外に何か郷土料理のようなものはあるか。

□多摩地域全体として、武蔵野うどんがあるが、多摩市民に馴染みがあるかという、わからない。もしくは多摩産の野菜を使って料理するというのも方法のひとつなのではないか。事務局からの情報提供としては、以前、料理ができず毎日コンビニ弁当を食べているような高齢の男性を対象として、冷凍うどんの簡単な調理体験をしているという市民団体があった。そのような方々は、自分は料理ができない、無理だと思っているようで、冷凍うどんであればレンジで温めるなど気軽にでき、おいしく、自信にもつながる。また、スーパーへ行くのはハードルが高く、コンビニで調達できる材料というのも魅力だそう。そのようなまったく料理ができない人でも参加しやすい企画というのも視点のひとつとしていかがか。

●うどんは茹でて、ざるにあげるのも大変というときがある。レンジで温めるだけというのはハードルが低く、普段料理をしない人も家で試しやすく、再現性が高いと感じる。

●とても簡単な料理と難しい料理の両方を別の企画として行うというのが良いのではないか。再現性はない企画にも楽しさという魅力はあると思う。

→次回の実行委員会までの各自他自治体の事例などを調べ、内容を決定することとなった。

◆ 実施時期・場所

●キッチン設備がついている場所はあるのか。

□TAMA女性センターにはキッチン設備付きのワークショップルームがあるためそこで開催可能。もしくは消費生活センターにもキッチン設備付きの調理室があるので、料理の内容によって利用施設を決めるのが良いと思われる。

●開催時期について、世間一般で2月、3月はあまりイベントがないため、そのあたりはどうか。

●3月のホワイトデーに合わせて、「チョコレートのお返しにお料理をつくりませんか？」というの
は良い方法だと思う。

→2月後半に実施することとなった。

◆ 周知広報

●たま広報に掲載することは可能か。掲載するのであればいつ頃までに内容を決めておく必要があるか。

□2月後半に開催するのであれば、約1か月前の1月20日号に掲載するのが良いと思う。その場合、12月頭が原稿の提出締切のため、11月中に内容は固めていただきたい。

→チラシを11月中につくることが目標となった。

(2) 「必要な人に必要な情報を届ける」を実現するためにはどうすべきか

前回の議論で上がっていた、届かない理由についてそれぞれ対応方法の意見出しを行った。

◆ 困りごとを認識していない人には？

●関心をひきそうなワードを具体的に書く(例：デートDVについて「〇〇って言われたい?」)

●トイレの座ったときの視線に合わせて掲示をする

◆ 困っているが相談できない人には？

●無作為抽出で情報を届ける(例：エリアミーティングにご招待します!)

●相談したら「大事になったらどうしよう」「秘密がばれたらどうしよう」など、相談後の流れがわからず相談できない人に向けての情報提供(例：相談員はどんな人? 性別は? 選択できる?)

◆ 参加したいが参加できない人には？

●オンラインでの参加(zoom など)

●土日や平日など参加しやすい時間帯がそれぞれあるのではないか

●動画で発信(例：お料理教室の動画を撮影してレポートとして掲載)

◆ 情報そのものに接触していない人には？

●関連施設のトイレなどで宣伝(例：市役所のトイレにカードを配架)

●クチコミ(インフルエンサーのような人に参加してもらい、広げてもらう)

4. 次回以降の活動日程

第5回は9月1日(火)10時からということを確認し、料理企画の内容を決定するためにそれぞれ他自治体の事例を調べるなど内容を考えることとなった。第6回以降については、後日決定予定。

5. その他

多摩市では、10月にアイスランドへ市長と職員が渡航することが決まっており、アイスランドはジェンダー平等世界一の国として知られているため、男女平等の視点で、現地を見てほしい、聞いてほしい、会いたいなど要望があれば第5回の市民運営委員会で教えてほしいと事務局から依頼を行った。

6. 閉会